

令和 3 年度「Kii-Plus 関西広域連合政策形成プロジェクト」実施報告書

活動テーマ		Kii-Plus 関西広域連合政策形成プロジェクト	
キャッチ (タイトル)		茅葺きでつくる地域づくり	
活動グループ	氏 名	所属・学年	
	(グループ代表) 佐藤寛子	経済学部 研究科	4 年
	(グループメンバー) 戸高英里子	観光学部 研究科	4 年
	福美裕子	観光学部 研究科	3 年
	飛詰峻	システム工学部 研究科	4 年
		学部 研究科	年
		学部 研究科	年
協力教員	氏 名	学 部	職 名
	西川 一弘	紀伊半島価値共創基幹 価値共創オフィス	准教授
	木村 亮介	クロスカル教育機構 教養・協働教育部門	講師
グループ名 (※1)		むすび屋弥右エ門茅葺きプロジェクト	
グループの公式 SNS/ HP など URL (※1)		Facebook : https://www.facebook.com/musubiyayauemon/ Instagram : https://www.instagram.com/musubi_yauemon3/ HP : https://musubiya-yauemon.studio.site/	

<p>政策の概要</p>	<p>本政策は、茅葺きをもたらす生活様式を活用した地域づくりを目指す。茅葺きの特徴を活かし、若者と地域住民による協働の地域づくりと、コロナ後の安心で且つ魅力あふれた観光地づくりを目的とする。</p> <p>茅葺き屋根は、通気性、断熱性、保温性に加え、自然素材でありながら耐久性に優れている特徴があり、茅葺きを新しく現代に合った活用をしていくことで持続可能な地域づくりが可能になること、和歌山県かつらぎ町を例に挙げ、提案する。</p>
<p>調査内容</p>	<p>1. 現状分析</p> <p>活動拠点であり、トタン被せの茅葺き集落である志賀地区の現状を把握するために、地域住民に対し、ヒアリング調査した。</p> <p>2. 茅葺きを生かした地域づくりに関する事例調査</p> <p>茅葺きを生かした地域づくりの可能性を模索するため、現在も存在する茅葺き集落に関して、情報収集した。当初は、白川郷や神戸の茅葺き集落での実地調査、および茅葺き職人へのヒアリングを予定していたが、新型コロナウイルス流行による行動制限で、実施できなかった。そのため、代替策として、書籍にて茅葺きに関する知見、および茅葺きを生かした地域づくりに関する事例について調査した。</p> <p>3. 志賀地区での茅葺き屋根のおむすび屋さん開店に向けた実践</p> <p>私たちむすび屋弥右エ門プロジェクトは、かつらぎ町志賀地区で、茅葺き屋根のおむすび屋さんをつくり、開店をめざす。(2022年4月29日開店) 実際に、地域の茅を使った茅葺き屋根を自分たちでつくることで、茅葺きを活用した地域づくりにおける可能性と課題について検証する。開店に向け、トタン被せの茅葺き集落で暮らす地域住民の方や、おむすび屋さんを訪れる方に、自分たちが茅葺きの魅力や歴史を発信する必要があると考え、茅葺きや日本の伝統的な民家に関して、書籍等を用いて改めて学んだ。</p>



調査活動写真 (※2)





調査活動成果

地域の方へのヒアリング調査の結果、「地域の存続」や「若い人の地域への流入」を望む声が多数あった。その点から、茅葺き集落の観光地化は、地域への安定した収入や近年のインスタ映えによる効果により若者層が地域へ訪れるきっかけづくりという点で、地域づくりに貢献しうると考える。一方、茅葺き集落として観光地化していくためには、観光客に興味を持ってもらい、立ち寄ってもらえるような仕組みを作っていく必要がある。かつらぎ町の茅葺き屋根のおむすび屋さんでの実践では、おむすび屋では、地域の食材を使うことにこだわり、地域に還元できる形を考えた。また、ターゲットを20～30代とし、地域の存続に向けて、若者層を取り込むことを目指した。茅葺きという地域資源を活用し地域づくりをしていくことで、既存の住民にも茅葺きの秘めた魅力を再確認していただける機会になるのではないかと考える。茅葺き茅葺き集落での地域づくりは、地域のものを使って地域の経済がまわっていく仕組みを作り、地域全体で、地域づくり、観光地づくりを目指すきっかけの一つになりうると考える。

※1 必須ではありません。ある場合のみ記入してください。

※2 別途画像ファイルも合わせて提出してください。